

# 改題 土楽たより

どうらく

Kogure 農場 12月号 (NO80)

2016年12月10日 (土) 発行 (毎月10日)

## 【農暦】チョットしんみりした気分!

○今日は窓から朝の陽射しが光って暖かく見える。冷え切った部屋が直ぐ温まるような気がする。冬至も間近で日が極端に短くなっている。前夜の暗さと肌寒さに淋しいものを感じていたので、朝の陽射しが暖かいものを感じたのかも知れない。やる気を引き出してくれるような気もする。畑へ目を移すと雪が降ったのではと思わせるように一面真っ白である。やる気モードになっても、霜や霜柱の畑での作業は出来ない。作業は午後からである。畑に一部残されたままであるカボチャと小豆などの収穫をした。カボチャは未熟で傷んだものは残した。かなりの数である。小豆は木ごと採り、家に運び莢取りなどは後でやることにした。茄子の枯れ木も引き抜いた。遅れ作業はいなめない。品質も気持ちも沈む。承知してのことではあるが、反省は残る。(3日)

○相変わらず天候との相性が悪い。イベントや雑事がある時は決まって晴れる。笠間に戻るタイミングに天気が崩れることが多い。今年は、少しはまともに農作業を進めたいと思っていたが、想定外の事でやることになってしまった門扉外構工事の対応などもあり、気持ちの上で、大きくリズムを崩すことになってしまった。円錐にして乾燥していた黒大豆は雪の前日にハウスに緊急避難したままである。ブルーベリー、プラムなどの伸びた枝の剪定も気になる。残り作業が多い。早くもやれるだけやればいいという気分になっている。出来ないことが多くなると諦めも早くなる。



<初積雪>54年振りという11月の雪に驚く。終日家の中で。24日撮影

○一年が早い。カレンダーも残り一枚になった。菜園仲間からのメールに“先日、ラジオで年を取ると早く感じるのは1年が自分の1/年齢だからとか?と聞き60歳なら1年は1/60・・・妙に納得できるような?”とあった。60歳から更に年を重ねているのである。早く感じる筈である。3日に忘年会があった。“相変わらず今年も忘年会が多いです。欠席や新年会にしたのもありますが、。無いのも寂しいですが出来たらおいしい酒だけが飲めたらいいですね。”と畑の近況を伝える菜園の仲間へのメールに書いていた。忘年会が意外と多い。師走の風物詩になっているので無いのも寂しい。

○冷え込みが厳しかったからだろうが霜柱で植え込んだ玉葱が土の上に出されていた。隣

の畝の空豆のタネも出されていた。復活できるか心配しながら植えを直した。作業をしながらあと何回こんな作業が出来るのだからかと思った。黒大豆の莢取りやブルーベリーの剪定など早くやりたいと思いながら、チョットしんみりした気分になっていた。(10日記)

### 【楽農】まだ残り作業が多い!

<畑A> ; 玉葱の植込み、はやと瓜、キューイの収穫。

\* 茄子、唐辛子の処分など

<ハウス> ; なし

<畑B> ; カボチャ、小豆の収穫。

\* カボチャ、はやと瓜を出荷。

\* 未収穫のキューイが全て無くなっていた?



<黒大豆>乾燥中、雪の前日、ハウスへ緊急避難の前。

12日撮影

### 【楽市】イベント交流・直売など

○その他 ; 北山公園清掃ウォーク (12日) 詩吟本戸会・解散会 (29日) 川柳講座 (1日) 山野草の会忘年会 (3日) TBG忘年会 (9日) エコピア柏忘年会 (10日) に参加など。

### 【つぶやき=Tweet】下手の横好きは、私の文武両刀!

○最近、読み物に関心が薄れたような気がして自分のことが心配になっている。いつも楽しみにしている雑誌も面白く読めない。たまたま興味がないものに当たってしまったのか、良い本との出会いがなかったからかも知れない。他人との出会いで人生の良し悪しが決まると10月号に書いたが、本との出会いも人生を変える。先々月の講演会での市原悦子の話で、20人出会う、よい出会いは1人か2人だと言われていた。最近、気が弱くなったのか悪い出会いは辛い。今まで気にならなかったが、世の中、良い人ばかりではない。“渡る世間は鬼ばかり”というが、善人ばかりではない。悪い嫌な輩がいる。市原さんが言うように良い出会いは5-10%なのかも知れない。たった1人の出会いで人生を大きく変える。そんな出会いもある。



<川柳講座>ジェンダー川柳を詠む。面白いもの続出。1日撮影

○本との出会いもあるように、いろいろな出会いがある。時代との出会いもある。平和な時代に多くの時間を生きられたことは幸福なことなのかも知れない。アンネの日記で有名なアンネ・フランクはヒトラーのナチスの時代でなければ収容所で15歳の命を落とさないうで済んだと思う。アメリカでは人種差別的な発言をして憚らないトランプ次期大統領が極右の人物を閣僚に選んでいる。欧州では極右政党が支持を伸ばさせている。オーストリ

アでは落選したが極右の大統領が生まれるところであった。安倍首相やソフトバンクの孫社長が早くもトランプ詣でをしているが、怖い時代が始まりそうで恐いものを感じる。アンネが会ってしまった時代を再現させてはならないと思う。神奈川の障害者施設の殺人犯もヒトラーを語っていたと言う。欧州のナチ党のカギ十字の腕章をした青年の映像を見ると恐ろしいものがある。日本ではヘイトスピーチは下火になった？と思うが、政治は大きく静かに右傾化が進んでいるようで怖い。人類もそろそろ共存の道に進めないものかと思うのだが、悪い出会いで心を重くしているので、人間の性が二重の意味で怖い。自分の幸福を求めると他人の幸福を害さないで欲しいと叫びたくなる。



＜北山公園清掃ウォーク＞筑波山地域  
ジオパークの活動も兼ね。12日撮影

○いつもながら重苦しい話になってしまったので、話題を変えたい。日ごろ気になっている運動音痴、リズム音痴のことを、今さらながらではあるが、思うことがある。小学生の頃、運動会では後ろから2番目だった。ビリにはなりたくなかったのだと思うが、今でもはっきり覚えているが、これからは文武両刀だと決意したのは、小学4年の時だった。それ以来スポーツを第一に考えて実践して来た。体育の時間は大事にした。ラグビー、テニス、山岳部、ゴルフにと、今までスポーツをやらない時期はほとんどない。スポーツのある生活をして来た。悲しいかな身体と運動の資質に恵まれていない。ビリから2番目のポジションは大きくは改善されなかった。だが、迷惑にならないレベルを維持できたと思っている。現役時は銀座・新橋の近くの職場だったので酒席は多かったが2次会のクラブは好きになれなかった。小学生以来の音痴が災いしだからである。音楽の筆記試験で97点とっても3の評価であったことを今でも覚えている。リズム音痴も人生を貧しくしている。下手の横好きは、私の文武両刀から来ているようだ。

○何か取り留めない話になったが、“触れることが脳を育む、人を育む”福原義春（元資生堂社長）と大島清（元京都大名誉教授・霊長類研究所）の対談の本である。題名通りの内容である。面白かったので思い出した。定年の頃読んだ本である。強弱、高低、リズムが音楽の三大基礎で。測れるものとは別に“甘い、辛い、熱い音楽とか五感で表現する部分があると”とある。触れること、五感がと云っている。チャプリンも美空ひばりも音符が読めなかったと云う。音痴も300回聴くと歌えると友人もいう。老いらくにあつて、触れること、五感を大事にしたいと思う。

**【後記】**、霜柱の畑もいいものです。笠間  
に、*kogure*農場にお越し下さい。  
*HP*のアドレス（右記）が変わりました。  
**【特に編集せずランダムな構成にします】**

発行者；農場・小暮虎雄

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話；090-9333-4135

メール；[torao-k@nifty.com](mailto:torao-k@nifty.com)

*HP*；<http://ayaharu.my.coocan.jp>